



WATER PROOF[®] DRY SUITS



ドライスーツ 取扱説明書

OWNER'S INSTRUCTION MANUAL

第2版

日本総代理店

株式会社タバタ

本社 TUSA営業部

〒130-0005 東京都墨田区東駒形1-3-17

☎03-3624-2815 FAX03-3624-2817

◎お問い合わせ先

TUSA お客様相談室 ☎0120-989-023

受付時間：月～金 9:30～12:00、13:00～17:00

〒340-0813 埼玉県八潮市木曽根768

※TUSAのWEB上から、取扱説明書(PDF版)をダウンロードすることができます。

<http://www.tusa.net/manual/>

※本文の無断転載をかたくお断りします。

©Copyright 2012 Tabata Co.,Ltd. All rights reserved.

WPDドライスーツ取説 2014/4 第2版

当製品を使用するにあたっては、各潜水指導団体のドライスーツ専門講習を必ず受けてください。専門講習を受けていない方が使用すると重大な事故につながる危険性があります。

また、使用前に必ずこの説明書を読み、取扱方法と危険、警告、注意事項を完全に理解するようにしてください。

はじめに

この度は、WATER PROOFドライスーツをお買い上げいただきまして、まことに有難うございました。

潜水中ドライスーツは、高いシール性で、首と手首回りからの浸水を防ぎ、体を濡らすことがありません。体温の損失による疲労を最小限に抑さえ、特に水温の低い海や湖等では、快適なダイビングがお楽しみいただけます。

WATER PROOFドライスーツは極寒海域のような厳しい環境の中でも快適にダイビングが行なえるよう、最新の思想に基づき、最新の技術と素材、そしてデザインを取り入れたプロフェッショナルダイバーのためのドライスーツです。

WATER PROOFドライスーツは耐久性と伸縮性が抜群のシリコーンネック/リストシールと卓越した防水加工技術により、スーツ内部への水の侵入を防ぎます。そしてプロフェッショナルドライスーツにふさわしい機能を数多く備えています。

当製品をご使用になる前に、必ずこの説明書を読み、取扱方法と警告及び注意事項を完全に把握するようにしてください。また、ご不明な点がある場合には、お買い上げの販売店か(株)タバタお客様相談室(☎0120-989-023)までお問い合わせください。万一、誤った使い方をすると、浮上、潜降のコントロールが効かなくなったり、製品自体が壊れるなどして、重症事故や死亡事故につながる可能性があります。この取扱説明書を熟読しなかったことによる、ダイビング中の事故や負傷、また、製品の故障や破損につきましては、当社は一切の責任を負いかねます。

また、初めてこのドライスーツを海洋等で使用する際には、事前にプール等の安全な環境下で使用して、操作方法を習熟するようにしてください。

目次

安全のために	3
危険事項	4
警告事項	5
注意事項	6
各部の名称	7
L.P.(中圧)ホースの取り付け	8
ダイビング前の器材チェック	9
Water Proofドライスーツの着脱方法	11
Water Proofドライスーツの使用法	18
日常の点検と保管	23
防水ファスナーの取り扱い	25
シリコーンリスト/ネックシール交換方法	26
定期点検	33
その他の注意事項	33

安全のために

スクーバダイビングは、水中という非日常的な美しき世界に我々を導いてくれる、素晴らしいレジャーです。

また、スクーバダイビングに対する正しい知識と器材の正しい取扱方法を理解さえしていれば老若男女を問わず誰でも楽しむことができる親しみやすいレジャーでもあります。

しかし、それらの知識と取り扱い方法を正しく習得していないと、最悪の場合、重大な事故につながる危険性があることも事実です。そして一方で、その可能性は決して高いものでないことも、ダイバーの皆様は十分ご存知のはずです。

日本スクーバ協会※では、全てのダイバーの皆様ダイビングにおける危険性とは何かをよく認識していただくために、取扱説明書に共通の「危険」「警告」事項を掲載するとともに、「危険」「警告」「注意」表示のそれぞれの意味を以下のように定義いたしました。

※日本スクーバ協会とは、安全性の向上を第一に、ソフト及びハードの両面からダイビング業界の健全な進歩と発展を考えていくことを目的として、日本国内の主要器材メーカー、商社、ウエット(ドライ)スーツメーカー、雑誌社等が集まって構成されている団体です。



危険

「危険」：それを守らないと、最悪の場合重症事故や死亡事故につながる危険性のある、スクーバダイビングに対する知識とスクーバダイビング器材の取扱方法に関する情報。



警告

「警告」：それを守らないと、間接的に重症事故や死亡事故につながる可能性、もしくは、重度の物損事故が起こる可能性のある、スクーバダイビングに対する知識とスクーバダイビング器材の取扱方法に関する情報。



注意

「注意」：それを守らないと、軽症程度の事故につながる可能性、もしくは、軽度の物損事故が起こる可能性のある、スクーバダイビングに対する知識とスクーバダイビング器材の取扱方法に関する情報。



危険

危険事項

- 当製品を使用してスクーバダイビングを行うにあたっては、国際的に認知されている潜水指導団体の学科講習及び実技講習を必ず受けてください。(各指導団体のインストラクター監督下における講習中の使用はこの限りではありません。)
(日本スクーバ協会共通掲載危険事項)
- 特に、このドライスーツに関しては、各指導団体のドライスーツ専門講習を必ず受けるようにしてください。ドライスーツを使用するにあたっては、十分な知識と練習が必要です。万一、専門講習を受けていない方が使用すると重大な事故につながる危険性があります。
- 当製品をご使用になる前に、必ず取扱説明書をよく読み取扱方法と危険、警告及び注意事項を完全に理解するようにしてください。また、ご不明な点がある場合には販売店もしくは、(株)タバタお客様相談室(☎0120-989-023)にて必ず説明を受けてください。万一、間違った使い方をすると浮上、潜降のコントロールが効かなくなり、重大な事故につながる可能性があります。
- Cカードを取得している方でも、もし、減圧症やエアエンボリズムなどの発生メカニズムと、それを防ぐ方法を十分に理解出来ない場合は、講習を受けた指導団体のテキストブックを必ず理解出来るまで読み返してください。基本的な知識のないままダイビングを行うと重大な事故につながる可能性があります。スクーバダイビングを行う際には絶対に一人で潜らず、必ずバディシステムを守るようにしてください。単独潜水は重大な事故につながる可能性があり、大変危険です。(日本スクーバ協会共通掲載危険事項)
- ダイビング数でタンク100本、または使用状況にかかわらず、購入後もしくはオーバーホール後1年間を経過した時点を目安に必ず販売店に器材の点検を依頼し、必要に応じてオーバーホールを受けるようにしてください。定期的なオーバーホールを怠った場合は器材が正常に作動せず、重大な事故につながる可能性があります。(日本スクーバ協会共通掲載危険事項)

**警告**

警告事項

- スクーバダイビングを行う際には、必ず良好な健康状態で行ってください。少しでも、寒気を感じたり、疲れていたり、気分が悪かったりする場合には絶対に無理を避け、ダイビングを中止してください。(日本スクーバ協会共通掲載事項)
- スクーバダイビングを行う前には、アルコールの摂取はもちろんのこと薬品類(特に、点鼻薬やかぜ薬等)の服用も避け、体調の悪い人や持病のある人は必ず事前に医師の診断を受けてください。(日本スクーバ協会掲載事項)
- ドライスーツはゲージ、レギュレーター、BCJ等と共にダイバーの命を預かる大切な器材です。ダイビングを行う前には必ず各部を点検し(P9参照)、各バルブの作動不良、防水ファスナーやシール部分(首、手首)の破損等の異常がある場合や、少しでも疑いがある場合には絶対に使用せず、すみやかに販売店、もしくは、当社メンテナンスセンターにて点検、修理を行ってください。(P33参照)
- 長期間(3ヶ月以上)使用しなかった場合には、使用前に必ず販売店にて点検を受けるようにしてください。もし、これらの点検、整備を怠った場合、器材が正常に作動せず重大な事故につながる可能性があります。(P9参照)
- 規格外のパーツを取り付けたり、勝手に改造を加えることもおやめください。ドライスーツの点検、修理には特別な道具と技術、検査設備が必要です。万一、ご自分で分解したり、改造した場合には、水漏れ、故障の原因となり、重大な事故を招く危険性があります。L.P.(中圧)ホースは、特に破損や不良箇所がなくとも、また使用状況にかかわらず、1~2年毎を目安に販売店にて点検を受け、必要があれば交換するようにしてください。長期間交換しないまま使用し続けると、外観上問題がなくとも、経年劣化により破損を招く場合があります、非常に危険です。(P8参照)
- ドライスーツ用L.P.(中圧)ホースのレギュレーターへの取り付けは必ずお買い上げの販売店に依頼し、トルクレンチ等の専用工具を用いて締めつけを行ってください。個人で取り付けると、締め付けの不良などによってホースが外れ、重大な事故を招く可能性があります。また、逆に必要以上のトルクでしめつけると、ネジ山を痛める場合もあります。(P8参照)
- 浮力の調整には、BCJを必ず使用してください。給排気バルブが故障した

時にBCJを装着していないと、浮力の確保が出来なくなり、重大な事故につながる危険性があります。

**注意**

注意事項

- ダイビング器材は、メーカー、品番によって仕様及び操作方法が異なりますので、なるべく他人に貸さないようにしてください。もし、貸し出す場合には、必ずこの取扱説明書を添付してください。
- 皮膚の過敏な方やアレルギー体質の方は使用前に医師の相談を受けてください。また、皮膚にアレルギー症状が起こった場合には使用を中止して、医師の診断を受けてください。
- ドライスーツの素材、水温、運動量等を考慮して、必ず適正な保温力のインナーウェアを着用するようにしてください。
- ドライスーツを着用する際には、砂や土、ほこり等のない平坦な場所かシートを敷いた上で、できるだけ腰掛けられる地形や施設を利用してください。水没の原因となりますので、特に、シール部分、防水ファスナー、各バルブ、L.P.ホースカブラーに砂や異物がつかないようにご注意ください。
- 防水ファスナーは強く折りまげないようにしてください。
- 過剰にドライスーツ内にエアールを入れたままの状態水中に飛び込むと、ファスナーに負荷がかかり大変危険ですので絶対にやめてください。

各部の名称

- ①排気バルブ
- ②排気(自動・手動)切り換えダイヤル
- ③給気バルブ
- ④インレットソケット
- ⑤ブーツ部
- ⑥シリコーンネックシール
- ⑦防水ファスナー
- ⑧スライダー
- ⑨シリコーンリストシール

D1

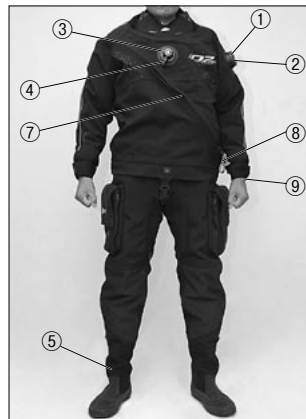


front



back

D7



front



back

L.P.(中圧)ホースの取り付け

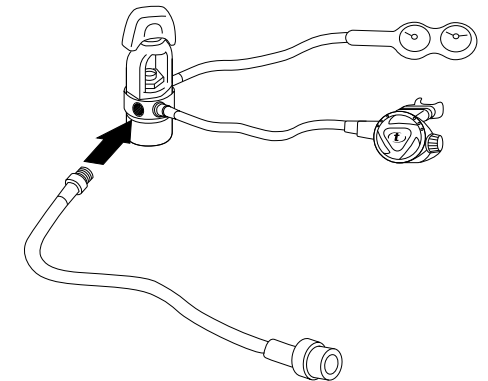
L.P.(中圧)ホースのレギュレーターへの取り付け

ドライスーツ用L.P.(中圧)ホースのレギュレーターファーストステージへの取り付けは必ずお買い上げの販売店で器材の取扱いに慣れたスタッフに依頼し、ファーストステージのL.P.(中圧)ポートに専用の工具を使って確実に締めつけてもらうようにしてください。

お客様ご自身で取り付けると、締めつけの不良などによってホースが外れ、重大な事故を招く可能性があります。また、逆に必要以上のトルクで締めると、ネジ山を痛める場合もあります。

警告

あやまってL.P.ホースを1stステージH.P.ポートに接続すると、ホース1stジョイント部が破損して、重大な事故を招く危険性があります。



L.P.(中圧)ホースは、特に破損や不良箇所がなくとも、また使用状況にかかわらず、1~2年毎を目安に販売店にて点検を受け、必要があれば交換するようにしてください。長期間交換しないまま使用し続けると、外観上問題がなくとも、経年劣化により破損を招く場合があり、非常に危険です。

ダイビング前の器材チェック

安全で快適なダイビングをお楽しみいただくためにも、ご使用になる前には必ず各部を点検してください。首と手首のシール部分や防水ファスナー、給気バルブの作動状態等に異常がある場合や少しでも疑いがある場合には絶対に使用せず、すみやかに販売店にて点検、修理を行ってください。

特に長期間(3ヶ月以上)使用しなかった場合には、使用前に必ず販売店にて点検を受けるようにしてください。もし、これらの点検、整備を怠った場合には、器材が正常に作動せず、重大な事故につながる可能性があります。

ご自宅でのチェック

ダイビングに出かける前に、まず、ご自宅で以下の項目をチェックしてください。

■ドライスーツの各部に、破損、キズ、磨耗、穴あきなどの異常がないかどうかを、細部までよく確認してください。特に、給気・排気バルブ、手首と首のシール部分、防水ファスナーは念入りに点検してください。

もしも、ダイビングを行う前にシリコンネック/リストシールに劣化や破損が見られた場合は、必ずシールを交換してください。

■防水ファスナー部分からの水漏れを防ぐため、ファスナーを開いて内側のシール部分を指でなぞり、ザラザラした違和感(砂・異物などの付着)がないかどうかを確認してください。

現地でのチェック

現地では実際にタンクのエアーを通して、以下の項目をチェックしてください。

バルブのチェック

①着用が完了レスキューユニットを装着したらドライ用L.P.ホースを給気バルブに接続します。このときに、他のホースとからまないように注意してください。



1) ホース側にリングをスライドさせる

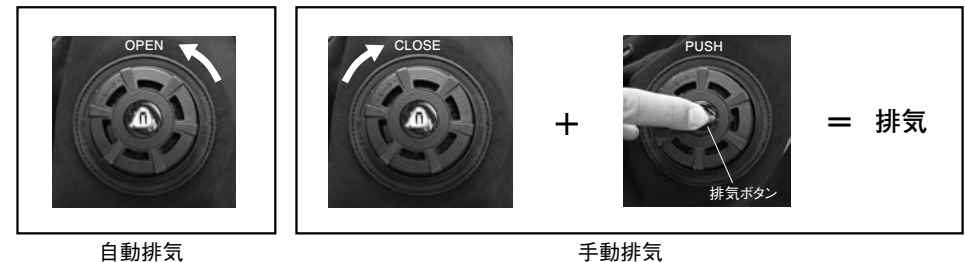


2) インレットソケットに接続する
3) リングを離す

②給気バルブ中央の給気ボタンを押してドライスーツ内に空気が供給されることを確認します。また、ボタンを戻したときに確実に空気が止まることを確認してください。



③防水ファスナーを閉鎖した時にスーツ内部に残った空気を利用して排気バルブの作動確認をしてください。ダイヤルを「OPEN」の方向に回すと自動排気。「CLOSE」の方向に回すと手動排気となり、排気ボタンを押したときだけ空気が排出されます。腰をかがめるなどしてスーツ内の内圧を上げて空気が排出されることを確認してください。オートでもマニュアルでも排気の確認ができます。



ファスナーのチェック

ファスナーがスムーズに動くことを確認してください。もしファスナーが動きにくい場合は、固形ワックス(パラフィン)を十分に塗り、ファスナーを動きやすくしてください。スーツの着脱を楽にすることができます。

Water Proof ドライスーツの着脱方法

Water Proof ドライスーツの着方

①ドライスーツを着用する前に、ドライスーツ手首部分の生地を折り返します。



② WARMTEC インナーを着用します。(D1 ドライスーツには着用する必要はありません)



③足を入れる前に、ドライスーツ本体を足の付け根部分まで折り返します。サスペンダーは、ドライスーツの外に左右それぞれ出しておきます。



④片足ずつ順番に、ドライスーツ本体のブーツに足を入れます。
注意 手首と首のシリコンを踏まないようにしてください。



⑤両足がブーツにしっかりと入ったら、腰の位置までドライスーツを持ち上げます。



⑥ドライスーツの左右それぞれの脇に出しておいたサスペンダーに腕を通して、写真のようにストラップの長さを調整します。



⑦右腕をドライスーツ本体の袖に通します。この時、指を開くとシリコンリストシールに引っかかってしまいますので、5本の指をすぼめて通してください。



⑧右腕と同様に、左腕もドライスーツ本体の袖に通します。



- ⑨手首のシリコンリストシールの位置を調整します。手首が細めの方は、腕の肘寄りに移動させてフィットさせます。

注意 シリコンリストシールの破損防止のため、爪を立てないように調整してください。また、水漏れの原因となりますので、シリコンの一部が内側に入っていたり、外側に反り返っていたりすることのないよう、確実にシリコンリストシールを調整してください。



- ⑩写真のようにシリコンネックシールを両手で広げて頭を通します。

注意 シリコンネックシールの破損防止のため、広げるときにツメを立てないようにしてください。



- ⑪シリコンネックシールの位置を調整します。この時シールをなるべく首の下の方にフィットさせてください。首の自由度が増します。

注意 水漏れの原因となりますので、シリコンの一部が内側に入っていたり、外側に反り返っていたりすることのないよう、確実にシリコンネックシールを調整してください。



- ⑫ドライスーツの背後、臀部付近には股掛けベルト（ストラップとオスバックル）があります。この股掛けベルトを背後から股を通して腰前面にあるメスバックルにはめ、ストラップの長さを調節してください。（※ D7 ドライスーツのみ）



- ⑬上半身のたるみをなくすために、写真のように腰の生地（フラップ状の生地）をつかみます。（※ D7 ドライスーツのみ）



- ⑭生地のたるんでいる部分をフラップの内側に送りながら、フラップ部の生地を下に下ろします。（※ D7 ドライスーツのみ）



- ⑮防水ファスナーをカバーする外側のファスナーのオレンジ色の取っ手を右手でつかみ、左手で防水ファスナーを斜め下に引いて閉めます。（※ D1 ドライスーツの場合ファスナーは背面にあり、ボディに閉めてもらいます）



- ⑯ある程度引いた時点で右手で写真のような位置をつかみ、防水ファスナーを引くのをサポートします。（※ D1 ドライスーツの場合ファスナーは背面にあり、ボディに閉めてもらいます）

注意 防水ファスナーは最後まで確実に閉めてください。確実に閉めないと水がスーツ内に浸入し、水没の原因となります。



⑰写真のように右手を伸ばし、オレンジ色の取っ手を引いて外側のファスナーを開めます。(D1 ドライスーツは背面にて行います)



⑱(⑰)と同じように、ある程度引いたら、右手でファスナー中央付近の生地をつかみ、ファスナーを最後まで開くのをサポートします。(D1ドライスーツは背面にて行います)



⑲ウォームネックの先端をそれぞれつまみ、面ファスナーで首後方に貼り付けます。



⑳裏返していた手首の生地を元に戻します。



㉑手首のフラップの先端をつかみ、面ファスナーで貼り付けます。



㉒写真のようにかがんで、シリコンネックシールの内側に指の先端をかけてすき間ををあげ、そこからドライスーツ本体内部にある余分な空気を排出します。



㉓着用完了です。(前面)



㉔着用完了です。(背面)



Water Proof ドライスーツの脱ぎ方

- ・外側のファスナーを開けます。
- ・内側の防水ファスナーを開けます。
- ・股掛けのバックルを外します(※D7ドライスーツのみ)。
- ・シリコンネックシールから頭部を脱ぎます。

注意 シリコンネックシールの破損防止のため、広げるときにツメを立てないようにしてください。

- ・手首の保温とシリコンリストシールの保護をしている手首のタブをつかんで面ファスナーを外します。
- ・手首部分の生地を外側へ折り返します。
- ・スーツ本体から手首を抜きますが、抜きやすいように予めシールの先端を手首から手のひらの方に移動させておきます。

- ㊸着た時と同じように手をすぼめ、シリコンリストシールリングを持って左手を引き抜きます。



- ㊹手がシリコンリストシールから引き抜いたら、シリコンリストシールをスーツ本体内側へ収納してください。脱ぐときに踏むなどしてシールが破損してしまうことを防止します。



- ・左手、右手と手首がドライスーツ本体から抜いたら足を本体から脱ぎます。上半身のドライスーツを折り返し、左右の足をそれぞれ脱ぎます。

注意 ネックシールを踏みつけて破損しないようご注意ください。

ドライスーツの使用法

ドライスーツを使用するにあたっては、十分な知識と練習が必要です。必ず各潜水指導団体のドライスーツ専門講習を受けてください。万一、専門講習を受けずに使用すると重大な事故につながる危険性があります。

また、低水温ダイビングを行う場合には、別に各潜水指導団体の低水温ダイビング専門講習を必ず受けてください。

水中でのドライスーツのスクイズ調整を行うには、スーツ内に給排気をする必要があります。各指導団体によって講習で教える浮力の調整方法が異なりますので、浮力調整に関してはドライスーツ専門講習で習った方法に従うようにしてください。

シリコンネック／リストシールの調整

首と手首のシリコンシールがきちんとフィットしていないと、圧迫や水漏れの原因となりますので十分ご注意ください。

特に初めてお使いになる場合や、シールを交換した場合は、シールを調整する必要があるかもしれません。適正なフィティングやシールのトリミング(切断)の方法は、出来るだけご購入いただいたダイビングプロショップで行なってください。

ご自分で調整される際の注意

シールにはトリミングするための目安となるリング状の線がありますので、ご家庭にあるハサミを使用して少しだけ切ってからフィット感を確かめてください。もし切りすぎた場合は水漏れの原因となり、シールを交換しなければならなくなりますので、慎重に作業を行なってください。

適正ウエイトの選び方

ドライスーツはウェットスーツに比べて、より適正なウエイト調整と中性浮力が必要となります。ウエイトは重すぎても、軽すぎてもいけません。

特にこの製品を初めて使用される時には、必ずインストラクターの監督下でウエイト調整を十分実施してから使用してください。

また、着用するインナーウェアの種類によって必要なウエイト量は変わります。前回のダイビングと異なるインナーウェアを着用する際には、その都度、ウエイト調整を行う必要があります。

なお、淡水と海水では必要なウエイト量が当然異なりますので、必ず、淡水でダイビングをする時には淡水、海水でダイビングをする時には海水でウエイト調整を行ってください。

次に、参考として一般的なウエイトの選び方を記しておきます。基本的にはあくまでも各潜水指導団体の推奨方法に従って調整を行ってください。

- ①ダイビング中に使用するインナーウェアを着用して、スクーバの全装備（エアータンクやアンクルウエイトを含む）を装着します。この時、ドライスーツとBCJ内のエアは完全に抜いておいてください。
- ②波のない安全な水域でちょうど胸のあたりまで水が来る程度の水深の深さに立ちます。
- ③ひざを曲げて体を浮かし、レギュレーターを加えて呼吸した時に水面が目の位置に留まっていられるレベルが適正なウエイト（中性浮力）です。適正状態になるまで、ウエイトの量を小刻みに加減して調整してください。

アンクルウエイト

■アンクルウエイトは、水中バランスの調整にも有効で、水中でのブーツ部分へのエアだまりを未然に防ぎやすくします。微妙なウエイト調整や水中バランスの調整にも有効です。アンクルウエイトは、バランスの関係上、必ず両足に同じ重量をとりつけてください。

※まれに、ブーツ部分にエアが集中的にたまって、水中で「逆立ち現象」が起こることがあります。そのような状態になると、排気バルブの位置の関係からエアを抜くことが出来ませんので、勢いをつけて、身体を降りたたむような姿勢から後転して両足を下に持って行くようにしてください。足が下に来た時点でエアが上部に移動し、元の姿勢に戻ることが出来ます。（バディに手伝ってもらおうと楽に出来ます。）

給気バルブの操作法（基本的に講習を受け、指導団体の方法に従ってください）

給気バルブはドライスーツ用L.P.（中圧）ホース先端のカプラーをバルブサイドのプラグに接続することによって使用可能となります。カプラー先端のリングをホース側に引きながら、給気バルブのインレットソケットにしっかりと差し込んでください。

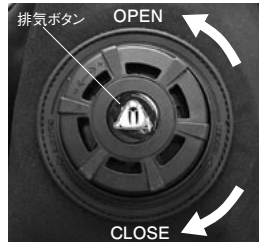
まず、入水時からある程度潜降するまでは、ドライスーツ内にエアを入れないようにしてください。水面付近でのスーツ内のエアは、ダイバー自身の動きをさまたげ、首のシール部分にたまったエアが首をしめつけます。水面上の浮力確保と潜降の開始は、BCJのエアコントロールによって行ってください。

しかし、深く潜って行くに従って、水圧は強く（水面に比べ、水深10mで約2倍、水深30mで約4倍）なり、逆にドライスーツによる浮力は減少します。

スーツ内に給気をしないでダイビングを行うと、スクイズが発生しますので、必ず給気を行ってスクイズ状態を解除してください。また、浮力低下に注意を払い、必ず指導団体の方法に従って、こまめに浮力調整を行ってください。

■ドライスーツの給気バルブ中央の給気ボタンを指先で押すことによって、スーツ内に給気を行うことができます。スクイズを感じる前に必ず給気を行ってください。

排気バルブの操作法(基本的に講習を受け、指導団体の方法に従ってください)

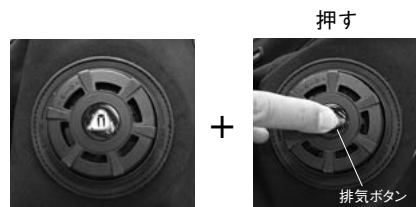


WATER PROOFのドライスーツは、全てAUTOバルブを採用しています。AUTOバルブは、OPEN (の文字) 方向に調整ダイヤル (排気バルブの外周) を回すとドライスーツ内の圧力が低く (スーツの膨らみ具合が小さく) 保たれます。CLOSE方向に回すと、排気ボタンを押すまで排気出来ません。(バルブの破損を防ぐために、過膨張のエアは排気されます。)

レジャーダイバーは基本的に常にOPENの位置で使用することをお勧めします。

■ OPENの位置にセットされていれば、余分なエアは自動的に排気されます。しかし、特に浮上時には「OPEN」バルブに100%頼るのではなく、浮上スピードに注意しながら左上腕部を肩より上に上げ、排気具合を確認してください。排気が確認出来ない時は、下記のように「手動排気」を行ってください。

■ OPENの位置にセットされていても、排気ボタンを押して排気することが可能です。



「手動排気」、または「自動排気」
 どちらの状態でも排気ボタンを押し続けると、ドライスーツ内のエアは排気し続けてしまいます。排気ボタンを押して排気する際には、エアの抜きすぎに十分ご注意ください。

トラブル発生時の対応

ドライスーツ使用中のトラブルとして考えられるのが、給気バルブのボタンが押されたまま戻らず、エアが入り放しになってしまうことです。

このような状態になることは極めてまれですが、なった場合には急浮上 (吹上げ) による減圧症、及び呼吸を止めた場合にはエアエンボリズムにかかる可能性が生じますので、以下のような対応方法を素早くとるとともに、ダイビング前にバディとトラブル発生時の合図の確認をよく行ってください。

①まず、ドライスーツ用のL.P. (中圧) ホースのカプラー先端のリングを引きながら、引き抜いてください。一般的に、タンクバルブが開いている状態でのカプラーは抜きづらくなっていますが、このカプラーは簡単に抜くことができます。

もしも、カプラーが抜けない場合には見切りをつけて②の行動に移ってください。

②排気バルブの排気ボタンを押し続けて連続排気を行い浮上を抑えます。(水面に浮上するまで、排気を続けてください。) 万一、排気バルブで浮上が押さえられない場合には、ネックシール部分に指先を入れてすき間を作りそこから中のエアを出します。(スーツ内に水が入って来ますが、とにかく急浮上を防ぐことが最優先です。)

※この時BCJのエアは完全に抜けていなければいけません。

③上記①か②の方法で浮上を抑えたら、バディに給気バルブが故障したことを合図し、BCJのウェストストラップなどを掴んでもらうことによって、自分の身体を抑えてもらいます。

④そして、その時点でダイビングを中止し、必ずバディの中性浮力コントロールによって残圧の範囲内で十分に減圧をしながら浮上してください。

次のダイビングでは、ドライスーツを絶対に使用せず、販売店もしくは当社メンテナンスサービスセンター (P33参照) にて点検、修理を行ってください。

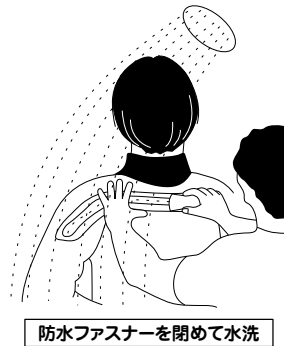
また、スーツに穴が開いたり、防水ファスナーが破損したり、バルブの故障などが起こってスーツ内に水が侵入してしまった場合には必ずダイビングを中止してください。

日常の点検と保管

ダイビング終了直後

器材を出来るかぎり長持ちさせるために、また、次回に安全で快適なダイビングを楽しむためにも、ダイビング終了後は、出来るだけ早く真水にて水洗いを行ってください。(ドライスーツがまだ濡れているうちに水洗いするのがもっとも効果的です。)

- ①ドライスーツは、防水ファスナーを閉めて着用したまま、真水で洗うのが最も簡単です。(ある程度エアを入れたままにしておくと洗いやすく、水洗後にスーツを脱ぐ時も容易です。) 本体、バルブをていねいに洗ってください。



- ②シャワー、ホースによる放水などを身体に浴びせてていねいに塩分や汚れを落とします。特に排気バルブは砂等で目づまりする場合がありますので、注意深く洗ってください。

- ③水洗いした後、着用したまま防水ファスナーを開けずに排気バルブを「CLOSE」にして給気バルブから空気を入れます。排気ボタンを押して空気とバルブ内の水を同時に排出してください。塩分や汚れが十分に落ちたら、ドライスーツを、ほこりや砂、土等がつかないきれいで平坦な場所(ビニールシートを敷くと良い)で、バディに手伝ってもらいながら脱いでください。

- ④洗ったドライスーツを、膝またはウエストのところで折れるように、太い棒等にかけて陰干ししてください。製品素材を守るためにも直射日光下では干さないようにしてください。また、防水ファスナーは開けた状態で絶対に負担をかけないようにして、砂やほこり等の付着を避けて干してください。

- ⑤当日、帰宅する等でパッキングする必要がある時でも、少なくとも水滴の滴りがなくなるまでは陰干しをしてください。(内側も洗った時には、スーツを裏返して同様に干してください。)

ドライスーツのたたみ方

- 写真① スーツをうつ伏せの状態にしたあと、腰よりも高い位置の所から折り返します。
 写真② 両足を手前に折り曲げます。
 写真③ 両手を内側に折り曲げます。
 写真④ ドライスーツを半分たたみます。
 写真⑤ 付属のスーツケースに収納します。

保管中は他の器材の下敷きになって防水ファスナーが折れることがありますので、別々に保管することをお勧めします。

保管中はドライ用L.P.ホースのインレットソケットに砂等が付着しないようにソケットキャップを装着してください。

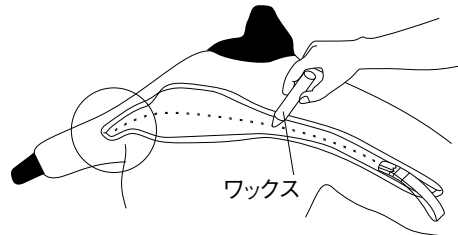


帰宅後

- ①帰宅後はもう1度、膝またはウエストのところで折れるように、物干し竿等にかけて、直射日光を避けて陰干しをしてください。なお、汗の臭いや、ダイビング直後の乾燥が不十分で、異臭等がある場合は、風呂場の浴槽等にきれいな水をためてスーツをしばらく浸し、ドライスーツ内外をよく洗ってから陰干ししてください。

- ②D1ドライスーツをお持ちのお客様は、3Dメッシュインナーを本体から取り外してから内部を水洗いすることができます。その場合は、ご家庭用衣料用洗剤を使用して洗濯を行ってください。(漂白剤や柔軟剤はご使用にならないでください。)

③十分に乾燥させたあと、防水ファスナーには、固形ワックス（パラフィン）を十分に塗ってください。シリコンスプレーや石油系潤滑剤は絶対に使用しないでください。



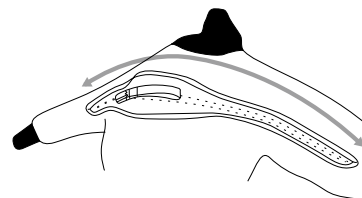
④保管は、防水ファスナーを開けた状態で幅広いハンガーにかけて、ブーツ部分が少し床につく状態で行ってください。その際、特にファスナー部分にはほこりがかからないよう大きなビニール袋を（ハンガーのフックの穴だけ開けて）被せて置いてください。また、小さなハンガーは首のシール部分に負担がかかりますので、使わないでください。

保管のスペースが無い場合は、前項の要領でドライスーツをゆるくたたみ、同様にビニール袋の中に入れて置いてください。その際は、防水ファスナーを守るためにも上から絶対にものを置かないでください。

防水ファスナーの取り扱い

使用上の注意

- 防水性保持のため、スライダーを先端にキッチリと密着するまで閉じて使用してください。
- ファスナーを開閉する前にエレメント部の内側、外側についている付着物（砂、泥等）を水またはブラシなどできれいに取り除いてください。
- ファスナーが背面部に付いている場合、他の人に開閉してもらうようにしてください。
- ドライスーツを使用する際は下着と専用インナー等を身に付けてください。
- 下着などの生地がファスナーにはさまって途中重くなったり、動かなくなったときは、スライダーを開ける方向に少し戻し、引っかけている場所を確認し、異物を除去してからゆっくりと閉めてください。



はさみ込み厳禁 折り曲げ厳禁

シリコンリスト/ネックシール交換方法

シリコンリストシール交換方法

①手首のファスナーを覆っている生地を外側に折り返します。



②手首の生地の内側にある引手を引いて、ファスナーを開けます。



③手首の生地をドライスーツ本体から取り外します。



④シール交換ツールをプラスチック製のリストリング（本体側）とプラスチック製のシールリングの間へ写真のように入れます。



⑤ シール交換ツールを少しねじって、リストリングとシールリングの間にすき間を作ります。



⑥ ある程度すき間ができたらシールリングを手でつかみ、引っ張ります。



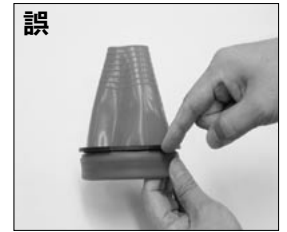
⑦ シールリングとシリコンリストシールをドライスーツ本体から完全に取り外します。



⑧ 新しいシリコンリストシールをシールリングに通し、写真のようにシールリングにある2段目の凸部まで隠れるように折り返します。



注意 3段ある凸部全てが隠れるまでシリコンリストシールを折り返す必要はありません。



⑨ ドライスーツ本体に取り付けられているリストリングとシールリングはどちらも楕円形状になっています。



⑩ 双方の楕円形状を正確に合わせながら、シールリングをリストリング(ドライスーツ本体)に押し込みます。この時ある一ヶ所を押したら次は反対側を押して、なるべく全体を均等に押し込めるようにしてください。



⑪ ドライスーツ本体へ、シリコンリストシールとシールリングをしっかりと取り付けます。



- ⑫リストカバーを本体にファスナーで取り付けます。引手はカバーの内側になるよう取り付けてください。



- ⑬スムーズにスライダーが動くようであれば、写真のようにスライダーに指をかけてファスナーを閉じることが出来ます。もし動きが悪い場合は、手首の内側からファスナーの引手を引いて、ファスナーを閉じてください。



- ⑭外側に折り返していた生地を元に戻します。



- ⑮シリコンリストシールの交換が完了しました。



シリコンネックシール交換方法

- ①シリコンネックシールの根元に近いところをつかみ、写真のようにドライスーツ本体から引っ張ります。



- ②シリコンネックシールをドライスーツ本体から取り外します。



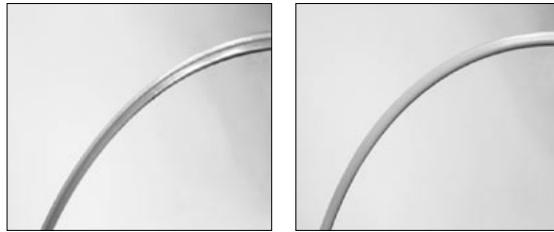
- ③シリコンネックシールの中の黄色いリングを取り外します。



- ④新しいシリコンネックシールを用意します。
シリコンネックシールには向きがあり、写真のように中央部分が凸形状になっている方が後面です。**(Silicone Neck Seal™)** という文字がある方を後面にします)



- ⑤黄色いリングには写真のように凹がある面と、凸凹がない平面があります。



- ⑥写真上、左側の凹面がある方を上にして、写真のように黄色いリングをシリコンネックシールの枠の中に入れます。



- ⑦黄色いリングを入れたシリコンネックシールをドライスーツ本体のネック部分にはめ込みます。この時、黄色いリングから折り返っているシリコンネックシールの“マチ”(余り)が、最低2cm以上あることを確認してください。



- ⑧シール交換ツールを使用して、写真のように黄色いリングをドライスーツ本体の凹部分に押し込みます。



- ⑨シール交換ツールを黄色いリングの凹部分にあてがいながら、本体の奥まで確実にはめていきます。

注意 きちんと奥まで正確にはめ込まないとシリコンネックシールが外れてドライスーツの中に水が入ってきて水没します。また、作業時はシリコンネックシールを傷つけないように十分注意し、確実にめ込み作業を行ってください。



- ⑩ドライスーツ本体に黄色いリングとシリコンネックシールが確実にハマっていることを確認したら完了です。



定期点検

ダイビング器材は、使用しなくても経時劣化が起こります。ダイビング数でタンク100本、または使用状況にかかわらず、購入後もしくはオーバーホール後1年間を経過した時点を目安に、必ず販売店に器材の点検を依頼し、必要に応じてオーバーホールを受けるようにしてください。定期的なオーバーホールを怠った場合は、器材が正常に作動せず重大な事故につながる可能性があります。

もし、お近くにダイビングショップがない場合は、オーバーホール器材を下記住所までご送付ください。

〒319-2134 茨城県常陸大宮市工業団地651-2
TUSA メンテナンスサービスセンター
☎0295-52-5621 (まず、お電話にてご連絡ください。)

その他の注意事項

- ドライスーツは絶対に洗濯機やドライクリーニングで洗わないでください。バルブはもちろん、素材を縮める可能性があります。
- ドライスーツは乾燥機（コインランドリー等）やドライヤー等で乾燥させないでください。
- 使用しなくなったドライスーツは、必ず不燃ゴミで処理をするようにしてください。燃やすと有毒ガスが発生して危険です。
- 製造時に使用した溶剤などが原因で皮膚・呼吸障害を起こす恐れがあります。異常が生じた場合は直ちに使用を中止し、新鮮な空気が吸える場所に移ってください。その後は必要に応じて医師の診察を受け、その指示に従ってください。
- このドライスーツの素材は、火に近付けると燃焼したり、焦げたりする可能性がありますので、絶対に火を近づけないでください。
- 「カイロ」「使い捨てカイロ」等は、やけどなどの原因になりますので使用しないでください。
- インナーウェアは必ず着用してください。素肌の上からスーツを着用すると、スクイズや摩擦によってすり傷ができます。